

## 平成20年度第6回岐阜県事業評価監視委員会

## 【河川課所管事業審議資料】

○ 再評価対象箇所一覧表	..... 1
○ 再評価対象地区に係る事業制度・費用対効果の分析について	
広域基幹河川改修事業	..... 2
総合流域防災事業	..... 3
○ 平成20年度 再評価実施箇所（附図）	
広域基幹河川改修事業（可児川）	..... 4
総合流域防災事業（坂本川）	..... 5
○ パワーポイント	
広域基幹河川改修事業（可児川）	.....6~11
総合流域防災事業（坂本川）	.....12~17

平成20年度 再評価対象箇所一覧表 8月22日審議箇所  
 [ 県土整備部 河川課 ]

番号	事業名	路線・河川名	市町村名	採択年度	完了予定年度	事業概要		全体事業費 (百万円)	実施済み額 (百万円)		進捗率 (%)		経過年数 (H20.3現在)	地元の意向	関連事業の進捗状況	社会経済情勢等の変化	環境との調和への配慮事項	事業費削減	費用対効果分析	対応方針 (案)	特記事項	
						全体事業量	実施済事業量		事業実施率	用地補償費	工事費等	用地補償費										工事費等
	公共広域基幹河川改修事業	木曾川水系 1級河川 可児川	可児市 御嵩町	S34	H24	18,380m	17,680m	96%	17,905 用地補償費 6,926 工事費等 10,979	17,504 用地補償費 6,850 工事費等 10,654	98 99 97	49	事業継続・早期完了を強く希望	なし	東海環状自動車道東ル下開通	瀬・淵の保全、覆土による植生回復	既設護岸の活用、掘削残土の有効利用	全体 9.0 残事業 21.6	継続			
	公共総合流域防災事業	木曾川水系 1級河川 坂本川	中津川市	(S57) H12	H21	260m	245m	94%	2,924 57 2,867	2,698 47 2,651	92 82 92	(25) 10	事業継続・早期完了を強く希望	なし	国道19号車中拡幅	瀬・淵の保全、植生に配慮した護岸	掘削残土の有効利用、旧河道断面の利 用	全体 1.2 残事業 1.6	継続			

平成20年度 再評価対象地区に係る事業制度・費用対効果の分析について  
 課名 河川課

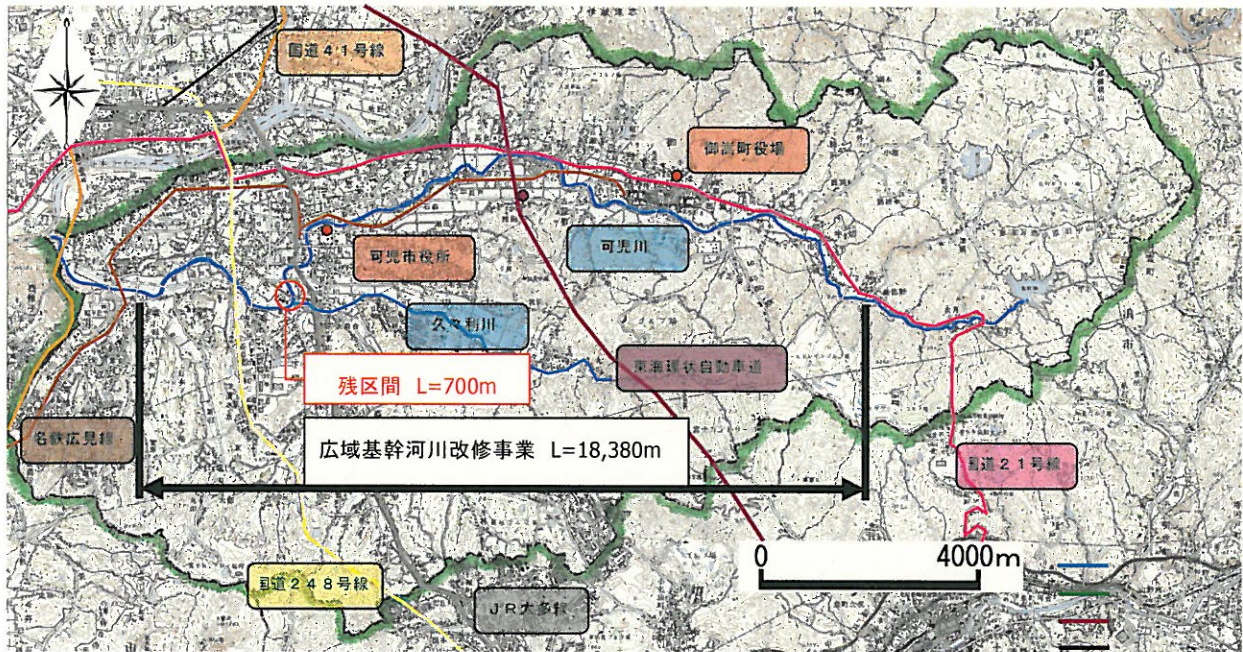
○事業制度について	事業名	広域基幹河川改修事業	
	事業目的	一級河川において、一定計画により一定区間の浸水被害を未然に防止するため、河川改修を実施し国土の保全と民生の安定を図る。	
	採択基準	総事業費が約12億円以上。被害が防止される区域内の農耕地が200ha以上であるもの、宅地が20ha以上あるもの。	
	概要 (メニュー)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・築堤工</li> <li>・掘削工</li> <li>・護岸工</li> <li>・橋梁工</li> </ul>	
○費用対効果の分析について *費用便益B/C*	効果の項目	うち貨幣換算する項目 ≪B≫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家屋資産</li> <li>・家庭用品資産</li> <li>・事業所資産 (償却・在庫資産)</li> <li>・農漁家資産 (償却・在庫資産)</li> <li>・農作物資産 (水田・畑)</li> <li>・公共土木施設等</li> </ul>
		その他項目	
	費用 ≪C≫ の算定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業費と維持管理費の合計</li> <li>・評価対象期間は整備期間+50年とする</li> <li>・現在価値化に用いる割引率は4% (B及びC共通)</li> <li>・維持管理項目は、毎年定常的に支出される除草等、定期的に支出される維持修繕等の費用を50年間にわたり計上する</li> </ul>	
		費用便益費の基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・費用便益比が1以上</li> </ul>

○事業制度について	事業名	総合流域防災事業（一級河川）	
	事業目的	流域（圏域）単位で水害対策と土砂災害対策、ハード対策とソフト対策を一体的に実施し、豪雨災害に対し流域一体となった総合的な対策を推進する。 （一定計画により一定区間の浸水被害を未然に防止するため、河川改修を実施し国土の保全と民生の安定を図る）	
	採択基準	河川改修費補助の採択基準（総事業費が概ね6億円以上。被害が防止される区域内の農耕地が60ha以上であるもの、宅地が5ha以上あるもの、家屋が50戸以上）に該当するもののうち、1事業の総事業費が100億円未満で、流域面積が100k㎡未満かつ想定氾濫区域内人口が1万人未満である一級河川。	
	概要 （メニュー）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・築堤工</li> <li>・掘削工</li> <li>・護岸工</li> <li>・橋梁工</li> </ul>	
○費用対効果の分析について *費用便益B/C*	効果の項目	うち貨幣換算する項目 ≪B≫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家屋資産</li> <li>・家庭用品資産</li> <li>・事業所資産（償却・在庫資産）</li> <li>・農漁家資産（償却・在庫資産）</li> <li>・農作物資産（水田・畑）</li> <li>・公共土木施設等</li> </ul>
		その他項目	
	費用 ≪C≫ の算定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業費と維持管理費の合計</li> <li>・評価対象期間は整備期間+50年とする</li> <li>・現在価値化に用いる割引率は4%（B及びC共通）</li> <li>・維持管理項目は、毎年定常的に支出される除草等、定期的に支出される維持修繕等の費用を50年間にわたり計上する</li> </ul>	
		費用便益費の基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・費用便益比が1以上</li> </ul>

## 平成20年度 再評価実施箇所（附図）

番 号		事 業 名 (路線・副名等)	広域基幹河川改修事業 (可児川)
事業実施箇所	可児市土田地先 ～ 可児郡御嵩町美佐野地先	事業主体	岐阜県
採択年度	昭和 34 年	完成予定年度	平成 24 年
再評価の実施基準	再評価後5年間を経過した時点で継続中の事業		
事業目的	可児川は、可児市及び御嵩町の中心市街地を流下する河川であり、河積狭小で流下能力が不足しており、過去に何度も浸水被害を受けている。本事業では掘削・護岸工により河積の拡大を図り、浸水被害の軽減を図る。		
事業概要	広域基幹河川改修事業 事業延長：L＝18,380m（掘削工、護岸工、築堤工、橋梁工）		

### 概 要 図



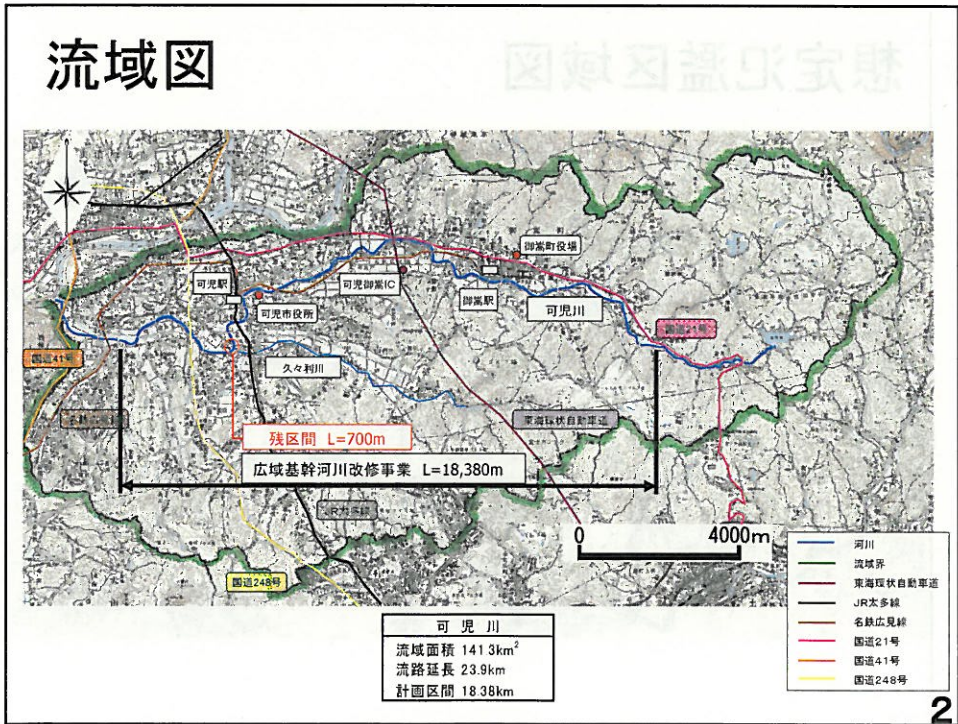
可児市役所付近



蛸橋付近

## 平成20年度 再評価実施箇所（附図）

番 号		事 業 名 (路線・河川名等)	総合流域防災事業 (坂本川) <small>さかもとがわ</small>	
事業実施箇所	中津川市	事業主体	岐阜県	
採択年度	平成12年	完成予定年度	平成21年	
再評価の実施基準	再評価後5年間を経過した時点で継続中の事業			
事業目的	坂本川はJR中央線橋梁付近で河積狭小となるため流下能力が不足しており、過去に浸水被害を受けている。本事業では掘削・護岸・橋梁工等により河積の拡大を図り、浸水被害の軽減を図る。			
事業概要	総合流域防災事業 事業延長：L=260m（掘削工、護岸工、築堤工、橋梁工）			
概 要 図				
				



## 過去の主な災害

被災年月日	起因	浸水面積	浸水家屋	床上	床下
S32.8.7	集中豪雨	400 ha	250戸	75戸	175戸
S34.9.26	伊勢湾台風	430 ha	369戸	47戸	322戸
S36.6.27	集中豪雨	800 ha	28戸	2戸	26戸
S36.9.16	第2室戸台風	1640 ha	9戸	2戸	7戸
S58.9.28	集中豪雨	56 ha	97戸	30戸	67戸

昭和58年9月28日  
可児市広見地内



平成12年9月12日  
7k100 蛸橋付近



3

## 想定氾濫区域図

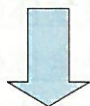


4

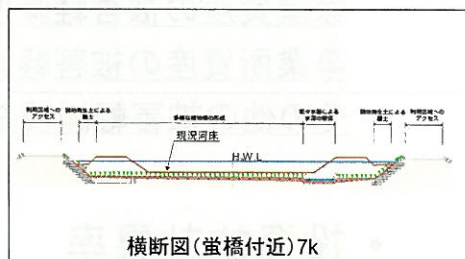


## 事業の概要

- ・沿川の都市化に伴う資産の増加
- ・流下能力不足を原因とする浸水被害



概ね50年に1回の洪水を安全に流すことが出来るように、断面の拡幅等を実施。



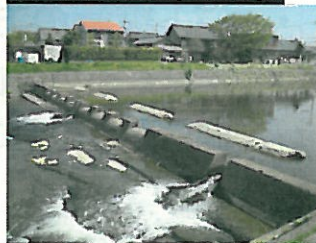
5

## 事業の進捗状況

進捗率(H19末時点)

- |        |       |
|--------|-------|
| ■ 工事   | 96.9% |
| ■ 用地補償 | 98.9% |

久々利川合流点部の固定堰



今後の方針

久々利川合流点部の河床掘削  
河川防災ステーションの整備

河川防災ステーション



平成24年度に完了する予定

6

## 費用対効果分析

### ・事業の効果

本事業を行うことにより軽減される被害

家屋資産の被害軽減便益・・・効果全体の26%

事業所資産の被害軽減便益・効果全体の14%

その他の被害軽減便益・・・・・・効果全体の60%

### ・投資的效果率

$$\text{効果額} / \text{事業費} = 9.0$$

7

## コスト縮減、代替案

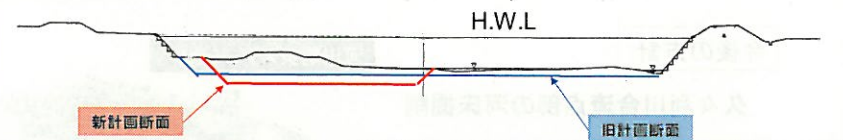
### ・コスト縮減の方策

① 掘削断面の見直し(既設護岸の活用)

約3億円縮減

② 掘削残土の他工事(道路改良工事等)へ流用

約1億円縮減



### ・代替案の検討

- ① ダム案
- ② 調整池案
- ③ 木曽川への放水路案

→  
コスト高

現行の  
河川改修計画  
が**最善**である

8

## 環境に配慮した取組み



河床掘削の工夫

現場発生土による覆土



生物保護活動



9

## 地域社会との協働

ボランティアによる清掃活動



小学生による蚕の幼虫の放流



小学生によるカワゲラウォッチング



市民の河川利用状況(可見市役所付近)

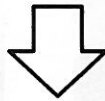


地域社会と一体  
となり河川を  
中心とした  
町づくりの推進

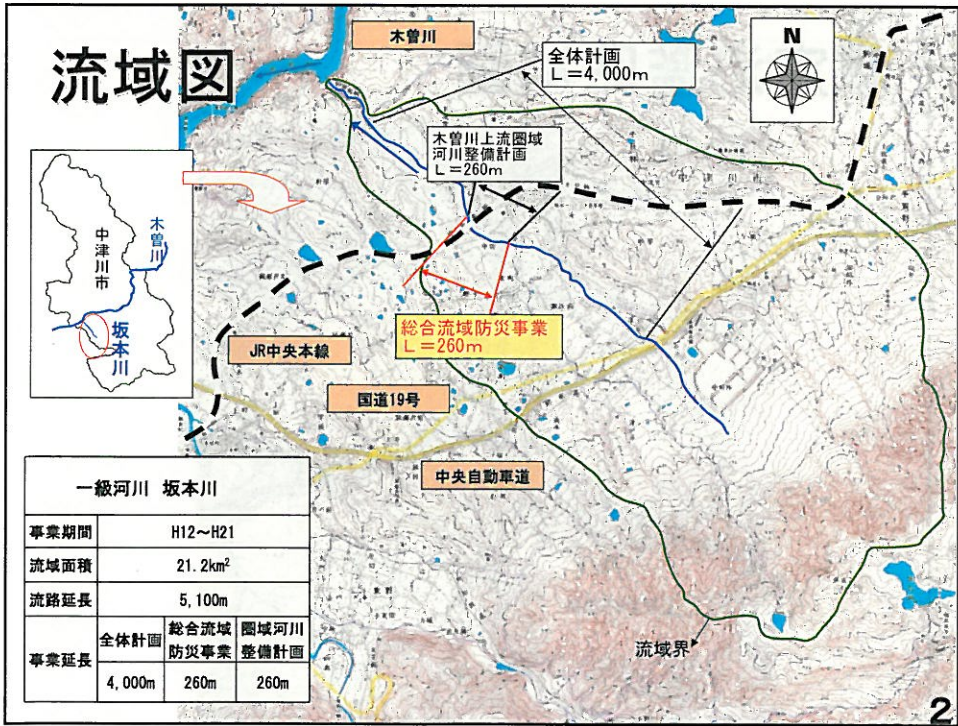
10

## 対応方針

- ①地元(可児市、御嵩町)から事業の早期完成を強く求められており、事業の投資効果も十分である。
- ②地元は事業に対し非常に協力的であり、平成24年度に完成する予定。
- ③現在の河道改修計画が一番妥当な計画で、残事業も少ない

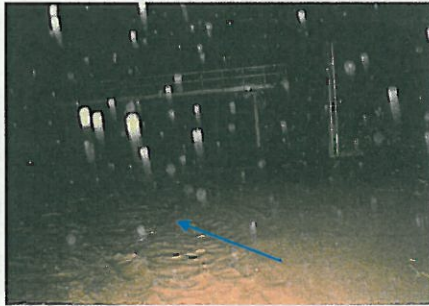


事業を継続することが妥当



## 過去の主な水害

被災年月日	降雨要因	浸水面積	床上浸水	床下浸水
S58.9.24~30	台風10号	0.2ha	1戸	6戸
H1.9.20	台風22号	0.1ha	—	10戸



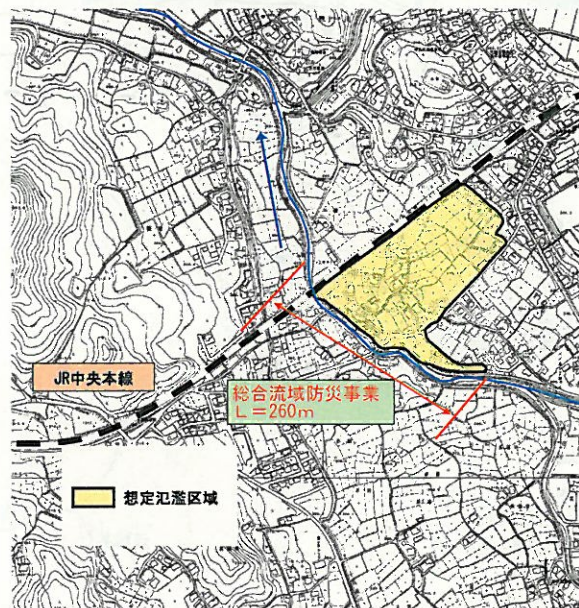
昭和58年 洪水状況 JR橋梁部  
上流より下流を望む



昭和58年 洪水状況

3

## 想定氾濫区域図



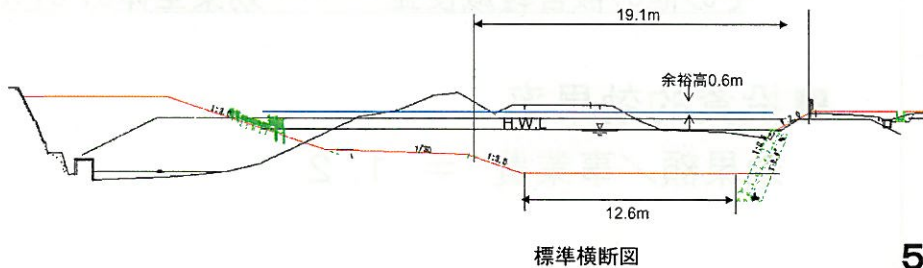
4

## 事業の概要

現況 現況河川の流下能力不足を原因とする  
浸水被害が発生。



概ね20年に1回の洪水を安全に流すことができるよう、整備を実施



## 事業の進捗の見込み

### 進捗率(H19末時点)

工事費 : 92%  
用地補償費 : 100%  
(※借地料を含めると82%)

### 今後の方針

管理用道路整備  
借地料



平成21年度完了予定



## 費用対効果分析

### ■事業の効果

- ・本事業を行うことにより軽減される被害

家屋資産の被害軽減便益…… 効果全体の 37%

事業所資産の被害軽減便益… 効果全体の 2%

その他の被害軽減便益……… 効果全体の 61%

### ■投資的効果率

$$\text{効果額} / \text{事業費} = 1.2$$

7

## コスト縮減、代替案

### コスト縮減の方策

- ・河川の掘削残土を有効利用 → 現場内利用及び農免事業の盛土等に利用

約0.3億円縮減

- ・旧河道の利用 → 左岸管理用道路のトンネルとした

約2.3億円縮減

### 代替案の検討

- ・ダム案 ・木曽川への放水路案 ・調節池案

↓  
適地がない、コスト高

河川改修が最善策

8



## 環境へ配慮した取組

### 【左岸側】

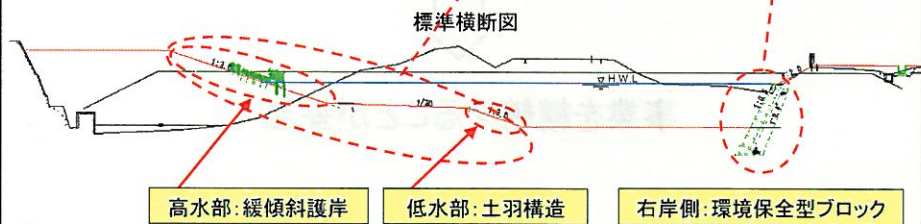
- ・低水部は土羽構造、高水部は緩傾斜護岸  
⇒ 早期植生回復

### 【右岸側】

- ・環境保全型ブロック ⇒ 早期植生回復

### 【河道縦断形状】

- ・勾配の変化 ⇒ 多様な河道形状の創出



9

## 地域社会との協働



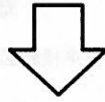
河川の清掃活動

地域社会との協働による  
川づくり・まちづくりの推進

10

## 対応方針

- ①地元(中津川市)から事業の早期完成を強く求められており、事業の投資効果も十分である。
- ②地元は事業に対し非常に協力的であり、平成21年度に完成する予定。
- ③現在の河道改修計画が一番妥当な計画で、残事業も少ない



事業を継続することが妥当